令和３年度　久留米市教育委員会施策体系（案）

学校教育を取り巻く状況

1　今の子どもたちが成長して活躍する社会は「多様化」「グローバル化」「情報技術革新」「不確実性」が激しい社会

2　人口減少社会の中で、本市が持続的に発展するための住みやすいまちづくりには教育が重要なファクター（教育で選ばれる都市づくり）

3　校内通信環境の整備とコンピュータ端末の配備によって教室における学びのインフラが劇的に進化

4　教員の著しい世代交代

5　児童生徒の偏在と学校施設の老朽化

6　アフターコロナに適応した学校運営の構築

差別や偏見を許さないシンボルマーク

市長

教育に関する大綱

学びが人をつくり
地域が人を育み
輝く未来を創る

総合教育会議

教育委員会

教育振興プラン

ともに未来を創る
「くるめっ子」
の育成

有為な人材
教育政策シンクタンク・外部採用

民間企業
Googleパートナー自治体プログラム

令和３年度スローガン
未来の学び、未来の教育へチャレンジ

探究心に火をつけろ
久留米の○○博士など個性溢れる才能を応援

特色ある教育実践指定
各学校の伝統と強みを活かした特色ある学校づくり

教育ICTモデル校指定
先進的な教育実践による活用向上と全校への展開

ベクトルを合わせよう

重点課題

自己実現し、社会に貢献するための学力の保障と向上

- 一人ひとりが個性に応じて社会で活躍できる力
- 様々な意見を調整しながら課題を解決し、新しい価値を創造する力
- 久留米への愛着と誇りを持ち、どこで暮らしても貢献を思う気持ち

人権同和教育 ／ 特別支援教育 ／ ｷｬﾘｱ教育 ／ ＩＣＴ教育

人権教育推進プロジェクト
人権・同和教育の推進

働き方改革推進本部

学校施設のあり方検討プロジェクト
学校統合や老朽化等の課題の検討

総務

教職員課

教育センター

教育事務所

学校給食共同調理場

市立高校

学校施設課

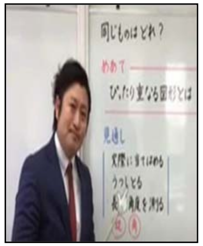
学校施設の計画・整備・維持管理

外壁爆裂

空調機

学校教育課

教科・生徒指導・人権教育・相談



授業スタンダード・学校統合

教育ＩＣＴ推進課

学校教育の情報化の推進

個別最適・協働的学び

学校保健課

学校保健衛生・給食・就学援助

給食

感染症対策

教育委員会後援事業等に関する報告

R3.2.6からR3.3.15受付分まで
※区分の★は新規に申請があったもの

No.	日時	事業名	主催者名	場所	区分	担当課
1	令和3年4月2日（金）、16日（金）、30日（金）	春の教え方セミナーIN久留米	NPO福岡こども未来工房	オンライン	後援	学校教育課
2	令和3年3月27日（土）、28日（日）、4月4日（日）	令和3年春の教え方セミナー福岡3会場	NPO福岡こども未来工房	久留米シティプラザ、大川市勤労青少年ホーム、福岡市なみきスクエア	後援	学校教育課
3	令和3年5月26日（水） 12:00～15:30 （予備日）5月27日（木） 12:00～15:30	第4回明善・伝習館野球定期戦	福岡県立明善高等学校	久留米市野球場	後援	体育スポーツ課
4	令和3年5月1日（土）～5月3日（月） 9:00～17:00	グランディールカップ　U-12、U-11、U-10	FCグランディール三潴	県営筑後広域公園（フィットネスエリア球技場/人口芝）	後援	体育スポーツ課
5	令和3年4月16日（金）～4月18日（日） 8:00～18:00	第66回全九州私立高等学校女子ソフトボール選抜大会	九州私学ソフトボール協会	久留米市田主丸多目的グラウンド・ うきは市吉井スポーツアイランド	後援★	体育スポーツ課
6	令和3年4月17日（土）～4月18日（日） 9:00～17:00	３×３GAMES「GX」	NPO法人くるぶら	久留米シティプラザ	後援★	体育スポーツ課
7	令和3年5月14日（金）～5月16日（日）	令和3年度　第66回全九州バレーボール総合選手権大会	久留米市バレーボール協会	久留米アリーナ、久留米市みづま総合体育館、久留米市西部地区体育館、久留米市三潴農業者トレーニングセンター、明善高等学校体育館、久留米学園高等学校体	共催	体育スポーツ課
8	令和3年11月23日（火・祝）8:00～ 12月5日（日）	スーパースポーツゼビオ杯争奪　第22回久留米市少年野球フレッシュリーグ秋季学童交流野球大会	久留米市少年野球フレッシュリーグ	久留米市桜花台野球場、市内他球場	後援	体育スポーツ課
9	令和3年3月21日（日） 14:00～16:00	「ブラス・フェスタin田主丸２０２１」	田主丸町文化協会	久留米市田主丸複合文化施設（そよ風ホール）	後援	田主丸事務所
10	令和3年4月1日～令和4年3月31日	「家族の日」「オアシス運動」推進キャンペーン	公益社団法人福岡県青少年育成県民会議	福岡県公認ボウリング場協会加盟ボウリング場	後援	学校教育課
11	令和3年3月20日（土）～5月31日（月） 9:00～17:00	グリーンマルシェ　春の植木祭	くるめ緑花センター協同組合	くるめ緑花センター 道の駅くるめ	後援	生涯学習推進課

No.	日時	事業名	主催者名	場所	区分	担当課
12	令和3年3月21日（日） 14:00～16:00	久留米信愛中学校・高等学校女声合唱団 第26回定期演奏会	久留米信愛中学校・高等学校女声合唱団	石橋文化ホール	後援	生涯学習推進課
13	令和3年3月27日（土）～28日（日）	さくらキャンプ	社会教育団体Dreams In Club	発心公園	後援	生涯学習推進課
14	令和3年4月9日（金） 19:00～21:00 令和3年4月10日（土） 15:00～17:00	古楽シリーズvol.15『バロックの呼吸！ドイツ生まれの三本柱～テレマン、バッハ、ヘンデルの軌跡～』	コンセール・エクラタン福岡	久留米公演：石橋文化センター共同ホール 福岡公演：あいれふホール	後援	生涯学習推進課
15	令和3年4月18日（日）	日帰りキャンプ体験	社会教育団体Dreams In Club	発心公園	後援	生涯学習推進課
16	令和3年5月15日（土）～16日（日）	いちごキャンプ	社会教育団体Dreams In Club	よかもんいちご	後援	生涯学習推進課
17	令和3年6月5日（土） 17:00～20:00	久留米市民オーケストラ第33回定期演奏会	久留米市民オーケストラ	久留米シティプラザ・グランドホール	後援	生涯学習推進課
18	A：令和3年6月26日（土）～27日（日） B：令和3年11月13日（土）～14日（日）	アドベンチャーキャンプA・B	社会教育団体Dreams In Club	福岡県立社会総合センター	後援	生涯学習推進課
19	A：令和3年7月24日（土）～25日（日） B：令和3年8月7日（土）～8日（日）	しぜんキャンプA・B	社会教育団体Dreams In Club	わらべの里研修センター	後援	生涯学習推進課
20	令和3年9月18日（土）～20日（月）	やまとキャンプ	社会教育団体Dreams In Club	わらべの里研修センター	後援	生涯学習推進課
21	令和3年10月23日（土）～24日（日）	ハローウィンキャンプ	社会教育団体Dreams In Club	山本コミュニティセンター、西泉公民館	後援	生涯学習推進課
22	令和3年12月18日（土）～19日（日）	クリスマスキャンプ	社会教育団体Dreams In Club	山本コミュニティセンター、西泉公民館	後援	生涯学習推進課

令和３年第１回（３月）久留米市議会一般質問回答要旨
質　問　一　覧（教　育　部　関　連　）

質　問　議　員	質　　問　　内　　容
＜代表＞	
吉冨　巧　議員	4　教育行政について （１）教育長就任１年目を振り返り、学力の保障と向上に関する今後の考え方について
石井　俊一　議員	8　ＧＩＧＡスクール構想について
田中　功一　議員	8　教育（学力向上）について （１）教職員のサポート体制と教員の確保について （２）目に見えない学力向上への取組について
森﨑　巨樹　議員	7　教育施策について （１）初等教育の平等性の担保について （２）小学校標準規模化について
＜個人＞	
轟　照隆　議員	2　久留米市立高等学校の今後について （１）久留米商業高等学校、南筑高等学校の特色を今後どのように生かしていくのか （２）久留米市立高等学校の教員採用について
小林　ときこ　議員	1　少人数学級について （１）少人数学級に向けた対応と課題について （２）小・中学校での早期実施について
金子　むつみ　議員	2　学校給食に関係して （１）学校給食の熱中症対策について （２）学校給食の重要性について
吉武　憲治　議員	2　問われる教育現場について（いわゆるブラック校則問題、教員の質の確保と再任用）

（教育部関係）

質　問　議　員	質　　問　　内　　容
＜代表＞	
森﨑　巨樹　議員	6　東京２０２０オリンピック・パラリンピックについて
＜個人＞	
原口　新五　議員	3　久留米市出身者の人材育成について （１）文化、芸術、スポーツのこれからの人に支援を （２）県との協議について（スポーツアスリート）

（市民文化部関係）

代表

【質問議員】　　吉冨　巧　議員

【質問要旨】　　４　教育行政について
（１）教育長就任１年目を振り返り、学力の保障と向上に関する今後の考え方について

【質問趣旨】　　教育長への就任以降を振り返っての思いや、子どもたちにとって必要な学力をどのように考えているのか見解を問う。

【回答要旨】　　１　教育長の職務を振り返って

令和２年４月１日に久留米市教育長を拝命し、はや１年が経過しようとしております。この間、子どもの学びや、安全安心に直結する課題である「新型コロナウイルスへの対応」、教育環境を大きく変える「ＧＩＧＡスクール構想の推進」、そして、久留米市で初めての取組みである「小学校統合」など、重要な課題に、市議会の皆様のご協力を頂きながら取り組ませていただきました。

その他にも、人権教育や特別支援教育、学校施設や給食室の改修など、教育行政の幅広さと、課題の重さを、日々痛感しながら取り組ませていただいた一年であったと思います。

２　子どもたちにとって必要な学力について

人口減少やグローバル化の進展、情報技術の革新など、社会が急激に変化していく中で、その変化に対し、受け身ではなく 主体的に関わり、豊かな新しい時代を創造していく力を育成することが求められます。

令和２年度から実施しています「久留米市教育振興プラン」では、「ともに未来を創るくるめっ子の育成」を目標に掲げるとともに、子どもたちに育成したい３つの力を定めています。

一つめは、知識・技能を表す「つくる力」で、各教科における基礎基本の知識や、その知識を既存の知識と関連付け、活用する力です。

二つめは、思考力・判断力・表現力を表す「つなぐ力」で、自ら問題を発見し、多様な考え方を統合して解決する力です。

三つめは、学びに向かう力や人間性を表す「つらぬく力」で、夢や目標への前向きな意欲、困難を乗り越える強い意志です。

子どもたちが、未来に向かい、豊かにたくましく生きるための力として、教育振興プランに掲げる、これらの３つの力を、家庭や地域と連携しながら、総合的に育成していきたいと考えております。

２回目

【質問要旨】　４　教育行政について
（１）教育長就任１年目を振り返り、学力の保障と向上に関する今後の考え方について

【質問趣旨】　　これからの時代に相応しい学力の保障と向上に向けた今後のビジョンを問う。

【回答要旨】　１　学力の保障と向上に向けた今後のビジョン

久留米市教育振興プランでは、先ほど申し上げた「３つの力」を育成するための指針として、「４つの重点」を定めています。

１点目が「主体的・対話的で深い学びを目指す学びをつなぐ授業」

２点目が「子どもたちが安全安心して登校できる楽しい学校」

３点目が「教師力の向上と子どもと向き合う時間の確保による笑顔の先生」
４点目が「協働する学校・家庭・地域」です。
市教育委員会としましては、これらの重点に基づき、学力の保障と向上に向けた具体的な施策を進めていきたいと考えております。

２　特に重要なもの
また、これらの重点を推し進めていくために、特に「ＩＣＴを活用した教育の推進」と「地域とともにある学校づくり」に力を入れていきたいと考えています。
「ＩＣＴを活用した教育」は、子どもの学習状況に応じた個別最適な学びや、他者と協力しながら答えを見つけ出していく協働的な学びを可能にするツールであり、「地域とともにある学校づくり」は、学校と地域が協働しながら一人一人の子どもを見守り育てていく仕組みづくりです。
このような、ツールや仕組みを活かし、子どもを主体に置いた教育を、丁寧に実践していくことにより、子どもたちの自信や、自尊感情、協調性や地域への愛着等を育みながら、それらを土台とした「学力の保障と向上の取組み」を進めていきたいと考えております。

【質問議員】　石井　俊一　議員

【質問要旨】　８　ＧＩＧＡスクール構想について

【質問趣旨】　４月からのＧＩＧＡスクール構想の全市的な展開に向けた準備は、ハード面とソフト面を含めて、どのような状況か。

【回答要旨】　１　ＧＩＧＡスクール構想について
本年４月から、全小中学校において、１人１台のコンピュータ端末を活用した、教育活動を進めていく予定としております。

２　ハード面の進捗状況について
校内通信ネットワークについては、現在工事を進めており、３月中旬には完了する見込みです。また、端末については、品薄のため新年度に配備予定である特別支援学校の iPad を除いて、小・中・高等学校に、必要となる Chromebook 約 24,000 台を３月末までに　配備できる見込みとなっております。

３　ソフト面の進捗状況について
ＩＣＴ環境を全校で活用できるようにするため、各学校の教員の中からＩＣＴ推進リーダーを指名し、昨年 10 月から３月までの　計５回にわたり、端末の操作方法に関する研修を実施するとともに、ＩＣＴ推進リーダーが、その研修内容を学校内の全ての教員に伝達することとしております。
その際、教育ＩＣＴ実証校である南薫小学校と荒木中学校の実践事例の動画を配信するとともに、ＩＣＴに関する専門的な助言を　行うＧＩＧＡスクールサポーターを派遣するなどにより、各学校の校内研修を支援しているところです。

【質問要旨】　８　ＧＩＧＡスクール構想について

【質問趣旨】　４月から、Google 社との連携や学校間の格差解消（使用状況の違い）を含めて全市的にどのようにＧＩＧＡスクール構想を進めていくのか。

【回答要旨】　１　新年度からのＧＩＧＡスクール構想の推進

市教育委員会としましては、令和３年度は、子どもたちや教員が、コンピュータ端末に慣れ、できる限り活用することを基本に取り組んでいきたいと考えております。

具体的には、４月中に全ての子どもたちに対し、端末の基本的な操作方法やルール、情報モラルについての指導を行います。

次に、５月以降は、インターネットでの検索方法やデジタルドリルの使い方など、基礎的なＩＣＴスキルの育成を図ります。

また、「様々な資料を収集・整理する活動」や「スライドにまとめて発表する活動」「子どもたちが考えを共有し、学び合う活動」などを可能な教科の中で取り入れていきたいと考えております。

２　Google 社との連携

先日、久留米市は「Google for Education パートナー自治体プログラム」に参画することを発表させていただきました。

このプログラムは、Google 社より様々な支援を受けながらＩＣＴ環境の整備と効果的な活用を実現し、全国に向けた事例発信を目指すものです。

今後は、Google 社から提供される教員研修プログラムや最新の実践事例を活用するなどして、教員のＩＣＴスキルの向上を図っていきたいと考えております。

また、現在の教育ＩＣＴ実証校である南薫小学校と荒木中学校では、Google for Education の事例校を目指し、さらなる先進事例の構築と情報発信を進めていきたいと考えております。

３　学校間の使用状況の違いへの対応

市教育委員会では、各学校の使用状況を定期的に調査し、個別の支援が必要な学校に対しては、積極的に指導主事を派遣するなど、プッシュ型の支援を行っていくこととしております。

４　今後のＧＩＧＡスクール構想について

今後、Google 社との連携や教育ＩＣＴ実証校の先進的な取り組みを全校に展開していくことで、全市的な教育 ICT の推進を図っていきたいと考えております。

【質問議員】　田中　功一　議員

【質問要旨】　８　教育（学力向上）について
（１）　教職員のサポート体制と教員の確保について

【質問趣旨】
・教職員のサポート体制について、市独自でさらなる支援を行う考えはないのか
・講師を含めた教員の確保と県との連携について、実態をどう捉え、今後どう取り組もうとしているのか。

【回答要旨】　１　教員のサポート体制の構築

教員が本来行うべき授業づくりに専念し、児童生徒と向き合う時間を確保するため、多様な人材が学校の教育活動に参画する取組を進めることは、学力の保障と向上にとっても必要であると考えております。

学習指導員とスクールサポートスタッフは、国の予算が概算要求段階から大

幅に削減されたため、国費を財源にした県の補助も絞り込まれ、本年度の全校配置から、次年度は大規模校への配置となる見込みです。

市教育委員会といたしましては、教員のサポート体制の確保について、地域と連携した何らかの取組ができないか、学校や地域と協議していきたいと考えています。

２　教員の確保について

現在、教員の確保は厳しい状況にあり、その代替として配置する講師も10名程度の欠員になっているのが実情です。

教員を安定的に確保するため、県に対して新規採用者の積極的な配置をしっかり要望していくとともに、今後は、県と連携し、久留米市においても、教員採用候補者選考試験の受験者募集の広報等を行っていきたいと考えております。

また、講師の確保については、市教育委員会が、近隣の大学を直接訪問し、講師登録の案内と協力依頼を行うとともに、退職した教員や過去の講師登録者、並びに、近隣自治体の教育委員会に対して、継続的な働きかけを行っています。

【質問要旨】　８　教育（学力向上）について

（２）目に見えない学力向上への取組について

「見えない学力」が高まれば「見える学力」も向上すると言われているが、久留米市としてどう取り組んでいるか。

【回答要旨】　１ 本年度の具体的取組

新学習指導要領では、これからの社会を生き抜くために「主体的に、他者と協働して、よりよい社会、幸福な人生を切り拓く力」が必要であるとされています。

久留米市教育振興プランにおきましても、育成したい力の一つに「つらぬく力」を掲げ、前向きな意欲や困難を乗り越える強い意志といった非認知能力、すなわち「見えない学力」の育成に取り組んでいます。

昨年９月には、教育振興プランの策定に関わられた福岡教育大学の伊藤克治（いとう かつじ）教授をお招きし、学力と非認知能力の関係に対する見識を深めるため、全小中学校の学力担当教員を　対象とする講話等を行っていただきました。

その中で、非認知能力を育成するための手法である「児童生徒が自分で目標を定め、友達と協働で課題を解決すること」や「努力の過程や結果を適切に評価すること」が、結果的に認知能力、すなわち、「見える学力」の育成につながることを学びました。

２ 今後について

教育振興プランに掲げる「つくる、つなぐ、つらぬく力」の育成は、認知能力と非認知能力で構成されています。

今後、認知能力とその方向性を決定付ける非認知能力について、ともにバランスよく育成できるよう、学校と連携した取組を進めてまいりたいと考えております。

２回目

【質問要旨】　８　教育（学力向上）について

（２）目に見えない学力向上への取組について

木村氏と下野氏の考え方に対する教育長の考えを問う。

【回答要旨】　1　お二人の考え方について
ご質問の中でご紹介いただきました、お二人の考え方や実践は「つくる・つなぐ・つらぬく力」の育成を目指す久留米市教育振興プランと方向性は同じであり、今後、久留米市の教育行政を進めていくうえで、大変参考になるものと考えています。

2　教育長としての考え
子どもたちが生きるこれからの社会は、これまでの制度や理論が通じない想定外の状況が起こり得る社会です。
子どもたちが、こうした予測困難な社会を生き抜くためには、知識や技能、思考力などの認知能力を身に付けるだけではなく、困難を乗り越える強い意志などの非認知能力を、その基盤として培っていくことが必要であると考えております。
また、全国学力・学習状況調査の結果が都市の教育環境を示す　一つの物差しになっておりますが、非認知能力を伸ばすことが、認知能力の育成につながり、結果的に全国学力・学習状況調査の結果にもつながるものと考えております。
今後、こうした二つの能力の育成を意識しながら、久留米市教育振興プランの目標である「ともに未来を創るくるめっ子の育成」を目指し、しっかり努力していきたいと考えております。

【質問議員】　森﨑　巨樹　議員

【質問要旨】　7　教育施策について
（1）　初等教育の平等性の担保について

【質問趣旨】
① 小学校の区域外登校について課題を含めどう認識しているのか。
② 各校の平等性と教育レベルをどう担保していくのか。
③ 各校の独自性をどう伸ばしていくのか。

【回答要旨】　1　指定校以外の学校への就学について
市立小学校の通学区域は、地域と協働した学校運営や安全安心な通学を確保するため、地理的な条件、歴史的経緯及び地域の実態等を踏まえ、居住地により就学先を指定しています。
一方、留守家庭や通学路の安全確保など、特別に配慮すべき事情がある場合は、指定校以外への就学を認めているところです。
近年、校区外からの児童数が多い学校が一部見受けられたため、教員数や施設面への影響が課題として懸念されたことから、通学区域を設定した本来の趣旨を踏まえ、当該校の一部の認定要件の制約を行うなど、適正な制度運用を図ったところです。

2　各小学校の平等性と教育レベルの担保について
学校教育については、学習指導要領で教育内容や方法等の基準が示されており、各小学校がそれに準じた教育活動を行うことによって、学校間の均衡を担保しています。また、市教育委員会においては、教育振興プランに「くるめ授業スタンダード」を位置付け、全ての学校や教員の授業力水準の標準化とその向上に努めております。

３　各小学校の独自性について
　市教育委員会としましては、各小学校間の均衡性を担保しながら、各学校がその歴史や文化、地域性などの独自性を生かした特色ある教育活動を進めることは、学校の活性化や子どもたちの学校に対する誇りと愛着を育むうえでも重要であると考えており、今後、より積極的に進めてまいります。
　なお、来年度予算に、特色ある学校づくりを支援するための予算を計上させていただいております。

２回目

【質問要旨】　７　教育施策について
（１）初等教育の平等性の担保について

【質問趣旨】　① 教育の平等性に関する情報発信について問う。
② キャリア教育の取組について問う。

【回答要旨】　１　教育の平等性に関する情報発信について
　小学校における教育の平等性に関する情報発信については、各小学校が基準とする学習指導要領の内容や、「くるめ授業スタンダード」をはじめとする教育振興プランを市のホームページ等に掲載していきたいと考えております。併せて、各小学校の特色ある教育活動については、学校だより等で保護者等へ周知していきたいと考えております。
　こうした市教育委員会と学校の連携した情報発信により、各小学校の良さを発信し、地域に愛される学校づくりを目指していきます。

２　キャリア教育の取組について
　キャリア教育は、児童の社会的、職業的自立に向けて、必要となる資質・能力を身に付けさせる教育であり、児童が学校・家庭・地域での学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行います。
　市教育委員会では、変化の激しい社会を生き抜く子どもたちに必要な困難を乗り越える強い意志などの非認知能力を育むためには、こうしたキャリア教育の実践は有効であると考えております。
　各小学校では、児童が学習等の見通しを立て、学んだことの振り返りを記入する「キャリアパスポート」を節目節目で活用しながら、教育活動全体を通して、キャリア教育の充実を図ってまいります。

【質問要旨】　７　教育施策について
（２）小学校標準規模化について

【質問趣旨】　地域振興を含めた城島下田浮島の現状はどのようになっているか。

【回答要旨】　１．統合準備協議会の進捗状況
　４月の下田小、浮島小、城島小の統合に向けては、各校の保護者や地域、市、市教育委員会によって組織する統合準備協議会で、スクールバスの運行や制服・体操服の取扱、閉校式に関することなどについて協議を重ねてまいりました。また、学校跡地の暫定利用などの地域振興策についても協議が進められてきたところです。

２．学校の進捗状況

一方、学校においては、城島小学校の学校施設やスクールバス発着場の整備を進めており、特に、スクールバスの運行に関しましては、保護者や地域の方々を対象とした試乗会を実施し、その後、交流授業での児童の試乗、さらに、全保護者向けの説明会を開催するなど、スクールバスの万全な安全・安心体制を構築していくための取組を進めてまいりました。

また、児童の統合への不安の解消と期待感の向上を目的に、これまで交流授業を７回実施し、４月の統合に向けて、しっかりと準備をしてきました。児童へのアンケートでは、「友達ができて、一緒に遊べて楽しかった」などの声も出ているところです。

現在は、下田小、浮島小から備品類を城島小学校へ移設するための準備や、３月 21 日に予定されている閉校式に向けた準備にも取り組んでいるところです。

２回目

【質問要旨】　７　教育施策について
（２）小学校標準規模化について

【質問趣旨】　今後の城島地域における小規模校対策はどのように考えているか。
市全域における小規模校対策の考え方はどのようになっているのか。過小規模対策を優先してきたがこれからの取り組みはどこから行うか。

【回答要旨】　１．小学校統合の全市的な取組について

市教育委員会では、子どもたちのより良い教育条件・教育環境を整えていくために、平成 30 年 10 月に「久留米市立小学校小規模化対応方針」を策定いたしました。

この方針では、「既に複式学級が発生している学校」の統合を最優先に進めることとしており、次に「今後、複式学級の発生が見込まれる学校」について対応の検討を行い、その後、「１学年が１学級編制の望ましい学校規模を下回る学校」についての検討を行っていくこととしています。

２．城島地域の統合について

市教育委員会としましては、「久留米市立小学校小規模化対応方針」に基づき、今後全市的な小学校の統合を進めていくこととしております。

従いまして、城島地域の統合についても、この全市的な取組みの中で進めていくものと考えており、その際には、ご提案の小中一貫校の設置などを含め、地域の状況等を勘案しながら検討を進めてまいりたいと考えています。

個人

【質問議員】　轟　照隆　議員

【質問要旨】　２　久留米市立高等学校の今後について
（１）　久留米商業高等学校、南筑高等学校の特色を今後どのように生かしていくのか

【質問趣旨】　今後両校の魅力を高めていくためにも、どのような特色を生かした教育を行うのか、お尋ねしたい。

【回答要旨】　１　市立高校２校の特色

久留米商業高校は、平成 25 年度に学科を再編し、商業系の専門性を維持しつつ、大学進学に対応した特別進学コースを経営科学科に設置することで、大学進学でも実績をあげております。

南筑高校は、多様な進路ニーズに対応できる教育課程を編成し、普通科の中にアスリートとしての専門性を活かした、スポーツキャリア・コースを平成 28 年度より設置しています。

このように、市立高校２校は、独自の取組を自律的に進めており、良好な成果を上げております。その結果、受験生や保護者からも高い評価を得ているところです。

２　今後について

情報化や国際化が急速に進むなど、社会環境は大きく変化し、高校教育に求められるものも変化しています。それに伴い、令和４年度から始まる新学習指導要領では、指導内容の変更・授業改善・教科や科目構成の見直しが行われ、教育課程が大幅に変わります。また、中央教育審議会から普通科の学科改編について、答申が出されています。

今後、このような社会環境の変化に対応しつつ、現在の両校の特色を最大限に生かした魅力ある教育を進めてまいります。

２回目

【質問要旨】　２　久留米市立高等学校の今後について

（１）　久留米商業高等学校､南筑高等学校の特色を今後どのように生かしていくのか

【質問趣旨】　現在の特色ある教育を継続し、多くの中学生が入学を希望する高校であり続ける事が重要と考えるが見解をお聞きしたい。

【回答要旨】　１　市立高校２校の志願者について

令和３年度の一般入試の志願倍率は、久留米商業高校で 1.25 倍、南筑高校は 1.42 倍であり、推薦入試は久留米商業高校で 1.67 倍、南筑高校は 1.96 倍と高い倍率になっています。このように、受験生や保護者からの高い評価を維持することは、健全な学校経営や魅力ある教育を実施するうえで、大変重要であると考えています。

２　今後の魅力ある学校づくりについて

しかしながら、私立高校の実質的な授業料無償化や少子化の影響により、今後は私立・公立を問わず特色化を打ち出す高校が増加し、一層の競争激化が見込まれます。

そのため、先進的な取組を行っている高校などの情報収集や分析を行い、両校の特色をさらに磨き上げるとともに、例えば、スポーツや文化芸術の分野に秀でた生徒に積極的に入学していただき、支援していくことを検討するなど、他校との差別化を図りながら、魅力ある学校にしていきたいと考えております。

【質問要旨】　２　久留米市立高等学校の今後について

（２）久留米市立高等学校の教員採用について

【質問趣旨】　正規教員に対し講師の割合が高い状態だが、今後の市立高校教員採用についてどのように考えているのか

【回答要旨】　１　市立高校の教員の現状

令和２年度の市立高校２校の教員定数 95 名に対して､正規教員は 78 名であり、

残りの 17 名を期限付の常勤講師で補っておりますが、県立高校に比べると１校当たりの常勤講師の割合は高いといえます。
　近年は、退職者を補うために１～４名の新規採用を行っています。教員の新規採用については、教員の経験バランスを確保する上でも必要であると考えております。

２　今後の考え方について
　一方、先程も申しましたが、令和４年度より新学習指導要領による大幅な教育課程の再編が予定されており、また、中央教育審議会からは、普通科の学科改編についての答申が出されております。
　このように、高校教育の内容や役割が大きく変化する中、それに対応した職員の体制が求められます。
　今後は、国の動向や県立高校の対応状況等を踏まえ、両校の実情や特色に合わせた、教員の採用について検討していきたいと考えております。

２回目

【質問要旨】　２　久留米市立高等学校の今後について
（２）久留米市立高等学校の教員採用について

【質問趣旨】　両校の特色を生かす教育を行うには一定数の計画的な採用が必要になると思うが再度考えをお聞きしたい。

【回答要旨】
　教員の採用については、少子化の影響で中学卒業者数が減少すること、人事異動が２校に限られており、柔軟な人事管理が難しいこと、また、教育課程の大幅な再編に伴う、教科ごとの教員定数が不透明なことなどから、新規教員の採用については慎重な検討が必要であると考えています。
　一方で、両校の特色をさらに魅力アップさせること、また、計画的な教員採用も必要であると認識しております。
　従いまして、今後は、両校の活性化の検討を進めるとともに、その検討内容に基づいた、適正な、教員採用を行ってまいりたいと考えております。

【質問議員】　小林　ときこ　議員

【質問要旨】　１　少人数学級について
（１）　少人数学級に向けた対応と課題について

【質問趣旨】　35 人学級へ移行するにあたり、新たに必要な教員数、教室数、課題をどう捉えているのか。

【回答要旨】　１　新たに必要な教員数、学級数、施設整備への対応について
　小学校の 35 人学級への移行については、国や県が示す計画に基づき、令和３年度から５年間をかけて、段階的に取り組むことになっており、35 人学級への移行が完了する令和７年度時点の学級数は、本年度の児童数推計に基づいて試算しますと、小学校全体としては、578 学級から 574 学級となり、４名の教員と４つの学級が減少する見込みです。
　施設整備については、各年度、各学校で状況が異なるため、それぞれの状況に応じた対応を行っていくことが必要です。
　なお、移行途中に当たる令和４年度は、今年度より 10 学級増加する見込みです。

２　課題について
　現時点においても、教員の安定的な確保は難しい状況にあり、少人数学級への移行についても、教員の確保が課題であると考えております。

教室の確保につきましては、特別教室の転用など、既存施設の活用を基本としながら、対応を図っていきたいと考えておりますが、児童数や特別支援学級の増加などによる学級数の増加が生じる学校もあるため、将来推計等を踏まえた計画的な対応が必要であると考えております。

２回目

【質問要旨】　１　少人数学級について
（１）少人数学級に向けた対応と課題について

【質問趣旨】　教員を確保するため、再任用の待遇改善、指導方法工夫改善教員の担任としての活用など、市独自に取り組めないか。

【回答要旨】　１　教員の確保について
市教育委員会では、中核市の権限として教員の研修を実施しており、また、新規採用教員の指導教員を一定配置している人材育成上の強みを活かし、より多くの新規採用教員を配置するよう、県に対して強く要望しているところです。

２　再任用の待遇改善について
再任用教員の給与を上げるなどの待遇改善は、県が所管しているため、市独自での対応は困難であると考えております。
その一方で、フルタイム勤務に限定せず、週２日や週３日勤務などの短時間勤務を可能にするなど、勤務する方の状況に応じた柔軟な対応を図っています。そのため、再任用を希望する定年退職者の割合は、他市に比べても高くなっています。

３　指導方法工夫改善教員の担任としての活用について
県費である指導方法工夫改善教員については、県の要綱により学級担任としての活用が認められており、各校の状況に応じて活用されていますが、35 人学級への移行に伴い、来年度の配置は厳しい状況であるとも聞いております。

４　今後の対応について
市教育委員会としましては、教員数の適正な配置と安定的な確保について、教員の任命権と人事権を有する県教育委員会に対し、引き続き強く要望していきたいと考えております。

【質問要旨】　１　少人数学級について
（２）小・中学校での早期実施について

【質問趣旨】　①26 人から 30 人以下の学級数を伺いたい。
②小学校全学年で 26 人～30 人学級を実施した際に必要な教員数と教室数、及び人件費を伺いたい。
③市独自で、小学校における 35 人学級の前倒し実施、もしくは 30 人学級の実施について、市教育委員会の見解は。

【回答要旨】　１　26 人から 30 人以下の学級数について
本市では現在、26 人から 30 人以下の学級は、小学校では 26％にあたる 150 学級、中学校では 6％にあたる 13 学級となっております。

２　26 人～30 人学級に必要な教員数と人件費について
仮に令和３年度から市独自で、小学校全学年の 30 人学級を実施すると、新たに 106 名の教員と、その人件費８億４千万円が必要となる見込みです。また、小学校全学年で 35 人学級を実施すると、新たに、24 名の教員とその人件費１億９千万円が必要となる見込みです。

３　市独自での前倒しの検討について
　このような状況を踏まえると、教員の確保並びに膨大な人件費に加え、教室不足への対応も想定されることから、市独自で 35 人学級、もしくは、30 人学級の前倒しについては、困難であると考えており、市教育委員会としましては、国や県による 35 人学級への段階的移行の計画に沿って、取り組んでいきたいと考えております。
　なお、少人数教育の目的である「一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導」の実現に向けましては、児童生徒を主体とした授業への転換を図るとともに、教育ＩＣＴの積極的な活用などを通して、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

２回目

【質問要旨】　１　少人数学級について
（２）小・中学校での早期実施について

【質問趣旨】　市独自で、中学校における 35 人学級の前倒し実施ができないか。

【回答要旨】　１　中学校における 35 人学級の前倒し実施について
　中学校における 35 人学級につきましては、国において、今後の検討課題とされております。
　また、市独自に前倒しを実施した場合には、小学校と同様に多大な人件費が必要となります。
　市教育委員会としましては、国や県の計画に基づき、35 人学級の実現に取り組んでいきたいと考えており、まずは小学校の 35 人学級への段階的な移行に向けて、適正な教室整備、及び必要な教員の確保に努めてまいります。

２　今後の対応について
　なお、これまでも、小・中学校の少人数学級の早期実現に向けて、全国市町村教育委員会連合会などを通じて要望をしておりますが、今後も、様々な機会を通じて、国や県に対し、教員定数の改善並びに、適正な教室整備への財政支援について要望してまいりたいと考えております。

【質問議員】　金子　むつみ　議員

【質問要旨】　２　学校給食に関係して
（１）　学校給食調理室の熱中症対策について

【質問趣旨】　熱中症対策は空調機設置で終わりなのか。今後、どう取り組んでいくのか。

【回答要旨】　１　現状
　調理従事者の労働環境改善は喫緊の課題であったことから、昨年７月から８月にかけ、空調設備未設置校（３５校）に「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用して、空調機を設置しました。また、各校の配膳室（２２校）にも空調機などを設置しています。
　この空調機等の設置は、昨年のコロナ禍による夏休みを短縮した授業に対応するために、補正予算を大幅増加した緊急的異例の措置です。
　併せて、調理従事者のクールベスト用保冷剤を冷やしておく冷凍冷蔵庫を希望する学校に配置したところです。
　給食調理従事者から「室内が快適になった」「働きやすくなった」等の声が届いていると聞いています。

２　今後の対応
　今回の空調機の設置により、調理従事者の労働環境改善における緊急的な対応

としては、一定図られたものと認識しておりますが、引き続き現場の状況を確認しながら対応することが必要であると考えております。
　今後とも調理従事者の意見を聞くなど、現場の状況をしっかり把握しながら、給食調理業務受託業者と連携して労働環境の向上に努めてまいりたいと考えております。

２回目

【質問要旨】　２　学校給食に関係して
（１）　学校給食調理室の熱中症対策について

【質問趣旨】　調理中に体調不良を訴えた全ての給食従事者数を把握すべきではないか

【回答要旨】　１　今年度の調査状況
　給食調理室の労働環境の改善に対応するためには、体調不良を訴えた全ての調理従事者の状況を、正確に把握することが重要であると考えております。
　昨年度までは、学校栄養教諭等研究会が、給食調理室の室温や体調不良を訴えた給食調理従事者の人数を調査していましたが、今年度からは、給食調理室内の実態を客観的に把握するため、一般社団法人日本救急医学会が示す熱中症分類に基づいた調査へ変更しました。
　これにより、この熱中症分類にない、例えば、体のだるさ、のどの渇き等の軽微な体調の変化については、把握できておりません。

２　今後の取組
　新年度からの調査につきましては、熱中症分類に加え、日々の体調変化も把握できるよう、調査方法の工夫をしたいと考えております。

３回目

【質問要旨】　２　学校給食に関係して
（１）　学校給食調理室の熱中症対策について

【質問趣旨】　調理従事者は自ら労働環境の改善を訴えられない。行政が労働環境を把握して改善に取り組むべきではないか。

【回答要旨】　１　取組状況
　市教育委員会は、定期的に給食調理室を巡回し、その際、給食調理室や調理従事者の労働環境についても把握に努めております。
　また、調理現場の実状を最も把握している学校栄養士と、適宜、情報共有を図っています。
　さらに、調理業務受託事業者に対しては、学期ごとに調理業務等の改善指導を行う場を設けており、その中で調理従事者の労働環境についても改善を働きかけています。
　これからも、学校現場、調理業務受託事業者と連携して、調理従事者の労働環境の改善に取り組んでまいりたいと思います。

【質問要旨】　２　学校給食に関係して
（２）　学校給食の重要性について

【質問趣旨】　学校給食実施基準が改正されるが、市教育員会は対応を検討しているのか。また、地産地消の取組状況について知りたい。

【回答要旨】　１　学校給食実施基準
　学校給食実施基準は、学校給食が適切に実施されるために定められたもので、

学校給食で児童生徒が摂取することが望ましい栄養摂取量、この栄養摂取量を踏まえての献立の工夫、学校給食の食事内容の充実等が示されています。今回の改正では、ナトリウム、鉄、ビタミンＣ、食物繊維などの栄養摂取量が一部変更されるようになります。
　市教育委員会では、この学校給食実施基準に沿って給食を提供しており、今後も改正内容を踏まえた献立の作成に努めます。

２　地産地消の状況
　久留米産の農産物を食べることは、子ども達の食への関心が高まり、食育を推進するうえで大変効果的です。また、生産者の努力や感謝の気持ちを育む上でも有効であると考えております。
　このような考えから、市教育委員会としては、久留米産農産物を積極的に学校給食に取り入れており、昨年は、重量ベースで47%、また、使用品目数では72%、久留米産農産物を使用しております。

２回目

【質問要旨】　２　学校給食に関係して
（１）　学校給食の重要性について

【質問趣旨】　コロナ禍によって経済的に困窮している家庭が増えていると思われるが、給食費を減額する考えはあるか。

【回答要旨】　１　現状
　学校給食法第１１条では、学校給食に係る経費のうち、人件費・設備費・補修費は設置者（市）が負担し、その他の経費（主に給食費）は、保護者負担とされています。
　久留米市では、平成２７年４月に給食費を値上げし、現在、小学校が月 4,100 円、中学校が 4,600 円を食材費相当額として、保護者の皆様にご負担していただいております。

２　給食費の減額について
　経済的な理由等で就学困難な家庭に対しては、生活保護制度や就学援助制度の中で給食費実費額を給付・援助しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う収入減や、保護者の離別・失業等の特段の事情により、生活状態が悪化した場合についても、就学援助の申請を受け付けています。
　全児童生徒を対象として給食費を無償とした場合、就学援助や生活保護の公費負担で援助している分を差し引くと、年間約８億５千万円の新たな財源が必要となります。また、給食費の一部を援助するとした場合も、相当の額が必要となりますので、現在、給食費の一部減額についても難しいものがあると考えております。

３回目

【質問要旨】　２　学校給食に関係して
（１）　学校給食の重要性について

【質問趣旨】　コロナ禍によって経済的に困窮している家庭は相当数あると思われる。支援は考えていないのか。

【回答要旨】　新型コロナウイルスによって経済的な影響を受けた家庭への支援については、ウイズコロナ・アフターコロナを見据え、支援の対象や内容について、市議会の意見も伺いながら、市全体の重要案件として検討する必要があると考えます。

【質問議員】　吉武　憲治　議員

【質問要旨】　2　問われる教育現場について（いわゆるブラック校則問題、教員の質の確保と再任用）

【質問趣旨】　（1）市立中学校における校則の現状はどうなっているのか。
（2）厳しい教員採用状況の中、どのようにして意欲と能力のある教員を育成し、増やそうと努めているのか。
（3）退職教員の再任用と臨時教員の採用数はどうなっているのか。

【回答要旨】　1　市立中学校における校則の現状について

市教育委員会では、昨今の校則に関する報道等を踏まえ、市立中学校の校則の見直し状況等に関する調査を行いました。

その結果、生徒や保護者からの声や社会状況等を踏まえ、防寒着の着用時期や、靴下の色などに関する 校則の見直しを行ったり、行う予定である学校が 13 校ございました。

今後、校長会とも連携しながら、校則の点検と適切な見直しについて、各学校に働きかけていきたいと考えています。

2　意欲と能力のある教員の育成等について

近年、本市への新規採用教員の配置は、110 人を超える大量配置となっています。教育の質の維持・向上を図るためにも、教員の人材育成は非常に重要な課題であると認識しております。

そのため、市教育委員会では、１年間で実施していた初任者研修を３年間かけて丁寧に実施したり、市独自で経験４年目や５年目の研修を実施したりするなど、教員の成長段階に応じた、採用から　切れ目のない研修を実施しているところです。

さらに、今後は、教育ＩＣＴに関する研修についても、充実を図っていきたいと考えております。

また、教員の意欲を高めるために、働き方改革を進めるとともに、校長と教員一人ひとりが学校経営上の目標を共有し、建設的な意見交換ができる風通しのよい組織風土づくりにも取り組んでいきたいと考えております。

3　退職教員の再任用と臨時教員の採用数

今年度は、小中学校において、退職教員の約７割に当たる 124 人の再任用を行っており、その割合は、近隣の自治体より約１割程度高くなっております。

また、教員が欠員の場合に臨時的に配置する講師については、今年度は 169 人であり、昨年度より７人増えています。

市教育委員会としましては、教員の確保が厳しい状況にある中、退職教員の再任用及び臨時教員の採用は、人材確保面で有効であると考えており、できる限りの人材確保に努めてまいります。

【質問要旨】　2　問われる教育現場について（いわゆるブラック校則問題、教員の質の確保と再任用）

【質問趣旨】　①　教員の猥褻行為やパワハラ事案の懲戒処分状況について問う。
②　これらの行為の発生を予防するための対策と取組を問う。

【回答要旨】　1　教員の懲戒処分について

久留米市において、この５年間では、セクシュアルハラスメント行為による懲戒処分事案が１件発生しています。

2　発生を予防するための対策と取組について

市教育委員会としましては、このような教員の不祥事は、児童生徒へ多大な影

響を与えるだけでなく、市民の学校教育に対する不安や不信を招くことから、決してあってはならないものと考えております。
特に、今年度は、教員のわいせつ事案やパワハラ事案が報道等　　でも多く取り上げられており、県教育委員会からの通知等も踏まえ、指導の強化に取り組んだところです。
不祥事の予防に向けては、継続的な指導が何より重要であり、「校長会を通じた服務指導の徹底」「研修の実施」「他市の不祥事事例の周知」などを定期的に行っています。
また、ハラスメント行為を早期に発見、対応するため、相談窓口の周知や教育委員会事務局の中に、相談員を配置するなど、相談しやすい環境づくりに努めております。
今後とも、組織的・日常的に服務指導の徹底を図り、不祥事の防止に取り組んでいきたいと考えております。

代表

【質問議員】　森﨑　巨樹　議員

【質問要旨】　６　東京２０２０オリンピック・パラリンピックについて

【質問趣旨】　コロナ禍での事前キャンプについて、当初計画からどういう点を変更するのか？

【回答要旨】　１　基本的な考え

コロナ禍での事前キャンプにおきましては、選手団及び市民の皆様への感染防止の観点が必要不可欠であり、その対策に万全を期する必要があると考え、国が示す指針に沿って、現在準備を進めております。
しかしながら、コロナウイルス感染症が世界的にまん延している現状を踏まえると、国やIOC等の関係団体の方針が大きく変わる可能性もあり得るとの認識から、柔軟な対応も必要であると考えております。

２　事前キャンプ内容の見直し

現在、ケニア共和国及びカザフスタン共和国の事前キャンプは、今年の７月上旬より２週間程度実施する予定で両国と協議をしており、昨年の当初計画から大きく３点が変更となる見込みです。
１点目は、選手へのPCR検査の対応です。国が行う入国時検査に加え、受入れ自治体として、関係機関と連携し、入国から４～５日後と、選手村への入村３日前に行うことになっております。
２点目は、選手の滞在期間中の行動制限です。事前キャンプ中、選手は、宿泊施設と練習会場のみに行動が限られます。なお、移動は専用バスで行い、宿泊施設や練習会場も一般利用者との分離等の対策が必要です。これに加え、感染症対策として、当初計画しておりました大学生等との練習ができなくなっております。
３点目は、交流についてです。大会前には、子どもたちとの交流や、市民の皆様との文化交流などを予定しておりましたが、感染症対策のため実施が困難となりました。そのため、オンラインの活用や、十分な距離をとったうえでの練習見学会等の交流を検討しております。また、大会終了後にはなりますが、一部の選手に再度久留米にお越しいただき、直接交流できる機会を設けることなどについても、実現の可能性について、両国との調整を行っていきたいと考えております。

コロナ禍で、思うような取り組みが困難な状況ではございますが、子どもたちをはじめ多くの市民の皆様の記憶に残るとともに、市のスポーツ振興や地域の活性化につながる事前キャンプとなるよう取り組んでまいります。

２回目

【質問要旨】　６　東京２０２０オリンピック・パラリンピックについて

【質問趣旨】　大会の有無にかかわらず、ケニア、カザフスタンとの今後の交流はどのように考えているのか。

【回答要旨】　これまで取り組んでまいりました交流の中でも、昨年２月に行いました日本在住のケニア人選手による陸上教室等の交流事業は、大変好評でございました。今後も、このような日本在住の選手との交流や、日本で開催される国際大会参加選手との交流等に取り組んでいきたいと考えております。

また、今回の事前キャンプ準備で培った練習会場や宿泊施設等の手配といった受入れ体制の構築、関係機関との調整の経験等を十分に生かし、大規模大会やスポーツキャンプの誘致につなげていきたいと考えております。

いずれにしましても、ケニア共和国及びカザフスタン共和国とは、在日大使館や様々な関係者等、これまでの縁を大切にしながら、両国との友好関係のさらなる発展に期待するところです。

個人

【質問議員】　原口　新五　議員

【質問要旨】　３　久留米市出身者の人材育成について
（1）文化、芸術、スポーツのこれからの人に支援を

【質問趣旨】　文化、芸術、スポーツ分野で才能があり、今後の活躍が期待される人に、早い時期から支援を行うべきではないか。

【回答要旨】　１　人材育成の育成・支援の基本的な考え

文化芸術、スポーツ分野で、久留米市で活動する、あるいは久留米出身で今後の活躍が期待される人たちを育成・支援していくことは、将来にわたって久留米市の文化芸術、スポーツの振興、発展のため重要なことであると認識しています。

２　今後の活躍が期待される人の情報把握

しかしながら、ご指摘のように、今後の活躍が期待される人たちの情報を、早い段階で把握できているとは言い難い状況でございます。

したがいまして、まず、文化芸術分野では、動画配信サイトなどのＷｅｂ情報を活用した情報把握のほか、民間で行われている様々なイベントの出演者情報、さらには、業界情報等の早期把握に努める必要があると考えています。また、スポーツ分野では、今後の活躍が期待される人材については、各種競技団体が最も情報を把握していると考えられますので、これらの団体と連携を密にして、これまで以上に早い段階での情報把握に努めていく必要があると考えています。

【質問要旨】　３　久留米市出身者の人材育成について
（2）県との協議について（スポーツアスリート）

【質問趣旨】　福岡県では、スポーツアスリートに対する支援として基金を置くなど力を入れていると聞いている。このような県の政策などとの連携・活用を行い、市のスポーツ振興を推進すべきと考えるが、県との連携協議はどのような状況なのか？

【回答要旨】　１　福岡県との関係について

「福岡県スポーツ推進計画」の中で、市町村・スポーツ関係者や関係団体等が一体となって、施策の推進に取組むこととなっています。平成３０年には、久留米アリーナがオープンするなど、施設整備の面でも連携し、本市のスポーツ振興に取り組んでいるところです。

２　福岡県の政策との連携協議について

福岡県では、スポーツの力で福岡をより元気にする「スポーツ立県福岡」の推進に向け各種事業に取り組まれており、昨年９月には「一般財団法人福岡県スポーツ推進基金」が創設されております。

基金の事業内容としては、福岡県ゆかりのトップアスリートの育成や大規模スポーツ大会等の誘致・開催等となっていると伺っております。ご指摘のスポーツアスリートの育成・支援については、現在、福岡県との連携協議が不十分な点もあると認識しています。

久留米市におけるスポーツアスリートの情報は、各競技団体が最も把握していると考えられるため、これらの団体を統括する公益財団法人久留米市体育協会の力も借りながら、情報収集の強化に努めてまいります。そのうえで、久留米市出身のスポーツアスリートの支援につながるよう福岡県との協議を積極的に進めてまいります。

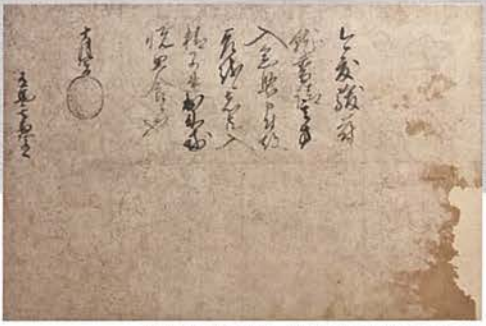
久留米入城 400年 ARIMA
2021年、有馬豊氏が久留米藩21万石の藩主として、
初めて久留米城に入ってから400年を迎えました。
久留米入城 400年 記念企画展Ⅰ
久留米藩主 有馬家歴代
令和3年 4月17日土 ◀ 8月2日月
開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 毎週火曜日（祝祭日と重なる場合は翌平日）
会場 有馬記念館 2階資料展示室（福岡県指定史跡久留米城跡内）
主催 公益財団法人有馬記念館保存会 久留米市・久留米市教育委員会
有馬記念館
Arima Memorial Museum

久留米藩主 有馬家歴代

前期展示 4月17日(土)▶6月14日(月)
後期展示 6月16日(水)▶8月2日(月)

有馬則頼(のりより)像（前期展示） 篠山神社蔵

久留米藩・藩祖則頼の肖像画。武将であり、茶人でもあった則頼は、豊臣秀吉の「御伽衆(おとぎしゅう)」として仕えました。



徳川家康御内書／久留米市教育委員会蔵
徳川家康が豊氏に宛てた、駿府城の普請をねぎらう書状。

有馬豊氏(とようじ)

初代藩主。豊臣秀吉、徳川家康に仕え、千利休の高弟十哲に数えられる茶人としての顔も持ちます。

二〇二一年、有馬豊氏(ありまとようじ)が初代藩主として初めて久留米城に入城してから、四〇〇年の節目を迎えました。有馬家は江戸時代を通しておよそ二五〇年間、十一代にわたり久留米藩二十一万石を治め、城下町の整備や産業の奨励など、現在の久留米の礎を築きました。

久留米藩政のトップであるとともに、茶人、和算研究者、愛犬家など、バラエティに富む人材を輩出した有馬家。本展では、歴代藩主ゆかりの作品や歴史資料を通して、その功績やエピソードを紹介し、知られざる人となりに迫ります。

鉄錆地紺糸威五枚胴具足(てつさびじこんいとおどしごまいどうぐそく)
（10代藩主 有馬頼永所用）
／有馬家蔵
前立ては迫力のある大型の鯱(しゃち)を装着しています。

練革黒漆塗白糸威五枚胴具足(ねりかわくろうるしぬりしらいとおどしごまいどうぐそく)
（11代藩主 有馬頼咸所用）
／久留米市教育委員会蔵
一般的に鉄で作られる部分も軽くて丈夫な革が用いられています。

墨竹図（後期展示）／久留米市教育委員会蔵
頼徳が月船の号で描いたもの。墨の濃淡によって巧みに生命感が表されています。

有馬頼徳(よりのり)

9代藩主。「月船(げっせん)」「水鴎(すいおう)」の号で絵画や書、茶道や能などの諸芸に通じていました。頼徳が興し、自らも作陶した柳原焼は現在も珍重されています。

有馬頼永(よりとお)

10代藩主。財政難を改めるために大倹令を発布するなど、名君として期待されましたが、惜しくも治世はわずか3年でした。

有馬頼咸(よりしげ)

11代藩主。全国有数の洋式海軍を整備するなど、改革を進めました。明治維新後は旧藩士救済のための資金援助を行いました。

2021年度　第1回　有馬記念館講座

歴代藩主の素顔に迫る！
～久留米入城400年、有馬家の治世～

- 日　時　6月26日(土) 14:00～15:00　**聴講無料**／申込み不要
- 講　師　原口 花恵(久留米市文化財保護課　学芸員)
- 定　員　先着60名
- 会　場　久留米市立中央図書館3階　視聴覚ホール（久留米市野中町970-1）

◎お越しの際は、できる限り公共交通機関をご利用ください。

公益財団法人 有馬記念館保存会

〒830-0021福岡県久留米市篠山町444　TEL/FAX.0942-39-8485
http://www.arimakinenkan.or.jp

●本企画展に関する情報に変更がありました場合には、当館ホームページ、フェイスブックによりお知らせいたします。
●当館ホームページに、「久留米入城400年特集ページ」を開設しました。

入館料　一般210円(150円)／高校生以下 無料

※( )内は15名以上の団体料金
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳または療育手帳の交付を受けている方及びその介護者1名は無料(受付で手帳をご提示ください)
※上下階の移動には、車椅子対応のエレベーターがございます。
※1階の多目的トイレは、車椅子でもご利用いただけます。

■JR久留米駅から徒歩約15分
■西鉄バス（系統番号8番）乗車、「大学病院」下車、徒歩約5分
■九州自動車道「久留米インター」から国道210号をJR久留米駅を目指して西進、車で約20分

音声コード
Uni-Voiceコード対応の携帯電話やスマートフォンで展示会についてご案内

教　育　委　員　会　資　料
令　和　３　年　３　月　１　９　日
市民文化部体育スポーツ課

スポーツ大会成績優秀者個人・団体の報告について（令和２年度分）

スポーツ大会において、令和２年４月から令和３年３月までの期間に、全国大会出場以上等の成績を収めた個人又は団体について、下記のとおりお知らせいたします。

記

○別紙「スポーツ大会成績優秀者　個人・団体（令和２年度分)」のとおり

以上

スポーツ大会成績優秀者　個人・団体（令和2年度分）

規模	No.	個人・団体名	区分	種目	大会名	日時	結果
国際大会	1	素根　輝	一般	柔道	2021年グランドスラム・タシケント（ウズベキスタン）	令和3年3月	優勝

※日時順、大会結果順

規模	No.	個人・団体名	区分	種目	大会名	日時	結果
全国大会	1	祐誠高校（男子弓道部）	高校生	弓道	高校弓道リモート全国大会	令和2年7月	優勝
	2	祐誠高校（女子弓道部）	高校生	弓道	高校弓道リモート全国大会	令和2年7月	準優勝
	3	米盛　夏希(佐賀学園高校)	高校生	水泳	第43回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 高等学校・中学校47都道府県通信水泳競技大会	令和2年9月	優勝
	4	石橋　佳世（三潴高校）	高校生	カヌー	JOCジュニアオリンピックカップ 第16回日本カヌースプリントジュニア・ジュニアユース小松大会	令和2年9月	優勝
	5	吉田　泰生（南筑高校）	高校生	サンボ	ビクトル古賀杯全国高校選抜サンボ選手権	令和2年9月	優勝
	6	原口　結（南筑高校）	高校生	サンボ	ビクトル古賀杯全国高校選抜サンボ選手権	令和2年9月	優勝
	7	金田　舞夏（祐誠高校）	高校生	自転車競技	2020年全日本自転車競技選手権大会トラック・レース（ジュニア） 兼　2020年JCFジュニア強化指定選手選考会　500mタイムトライアル	令和2年9月	優勝
	8	金田　舞夏（祐誠高校）	高校生	自転車競技	2020年全日本自転車競技選手権大会　トラック・レース（ジュニア）　兼　2020年JCFジュニア強化指定選手選考会　スプリント	令和2年9月	優勝
	9	金田　舞夏（祐誠高校）	高校生	自転車競技	2020JCSPAジュニアサイクルスポーツ大会（令和2年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会中止に伴う全国大会） 500mタイムトライアル	令和2年9月	準優勝
	10	金田　舞夏（祐誠高校）	高校生	自転車競技	2020JCSPAジュニアサイクルスポーツ大会（令和2年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会中止に伴う全国大会）ケイリン(エキシビジョン)	令和2年9月	準優勝
	11	横溝　貫太（祐誠高校）	高校生	自転車競技	2020JCSPAジュニアサイクルスポーツ大会（令和2年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会中止に伴う全国大会）　1kmタイムトライアル	令和2年9月	準優勝
	12	横溝　貫太（祐誠高校）	高校生	自転車競技	2020年全日本自転車競技選手権大会　トラック・レース（ジュニア）　兼　2021年JCFジュニア強化指定選手選考会　ケイリン	令和2年9月	準優勝
	13	梶村　宜杜	小学生	水泳	第43回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 高等学校・中学校47都道府県通信水泳競技大会	令和2年9月	出場
	14	山口　莉瑚	小学生	水泳	第43回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 高等学校・中学校47都道府県通信水泳競技大会	令和2年9月	出場
	15	横山暖乃（福岡レディースRFC）	高校生	ラグビー	第3回全国U-18女子ラグビーフットボール大会	令和2年10月	準優勝
	16	祐誠高校（陸上競技部）	高校生	陸上	JOCジュニアオリンピックカップ 全国高等学校陸上競技大会	令和2年10月	出場
	17	祐誠高校（弓道部）	高校生	弓道	第39回全国高等学校弓道選抜大会	令和2年12月	出場
	18	337 Rainbow	小学生	チアダンス	ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2020決勝大会	令和2年12月	出場
	19	江﨑　智哉（創成館高校）	高校生	サッカー	第99回全国高校サッカー選手権大会	令和2年12月	出場
	20	宮原　圭純	小学生	バドミントン	日本小学生バドミントンフェスティバルinくまがや	令和3年1月	第5位
	21	大場心晴（JBC久留米）	小学生	バドミントン	日本小学生バドミントンフェスティバルinくまがや	令和3年1月	出場
	22	ヤング友愛野球クラブ	中学生	硬式野球	第29回ヤングリーグ春季大会	令和3年3月	出場
	23	南筑高校（ソフトボール部）	高校生	ソフトボール	第39回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会	令和3年3月	出場
	24	うきはジュニアソフトテニスクラブ	小学生	ソフトテニス	第20回全国小学生ソフトテニス大会	令和3年3月	出場
	25	山下恭吾（福大附属大濠高校）	高校生	野球	第93回選抜高等学校野球大会	令和3年3月	出場
	26	秋山恭平（広島新庄高校）	高校生	野球	第93回選抜高等学校野球大会	令和3年3月	出場
	27	337 Rainbow	小学生	チアダンス	All Japan Cheer Leadind Dance Championship USA All Star Nationals2021全国選手権大会大会	令和3年3月	出場
	28	福岡ファイヤーバードバトンチーム	中学生	バトントワーリング	第2回全日本バトントワーリングジュニア選手権大会	令和3年3月	出場

※日時順、大会結果順

教　育　委　員　会　資　料
令　和　３　年　３　月　１　９　日
市民文化部体育スポーツ課

令和２年度久留米市スポーツ奨励賞・ジュニアスポーツ賞表彰式について

令和２年１月～１２月のスポーツ大会において、優秀な成績を収められた個人又は団体の功績を称え、下記のとおり表彰式を実施します。

１　日　時

令和３年３月２５日（木）　１６時４５分～１７時１５分

２　会　場

久留米市役所　８階　庁議室

３　受賞者　（※別紙参照）

① スポーツ奨励賞

個人：３名

② ジュニアスポーツ賞

個人：２名

（参考）表彰基準

①スポーツ奨励賞（高校生以上）

・国際規模の大会において優秀な成績を収めた個人又は団体

・全国規模の大会において優勝の成績を収めた個人又は団体

②ジュニアスポーツ賞（小学生及び中学生）

・国際規模の大会において優秀な成績を収めた小学生又は中学生の個人又は団体

・全国規模の大会において優秀な成績を収めた小学生又は中学生の個人又は団体

・九州規模の大会において優勝の成績を収めた小学生又は中学生

※優秀な成績とは、優勝、準優勝、第３位の成績をいう。

令和２年度　久留米市スポーツ奨励賞　受賞者

▼スポーツ奨励賞

No	氏名（所属）			大会名	日時／会場	結果
1	個人	自転車 競技	金田　舞夏 （祐誠高校３年）	2020年全日本自転車競技選手権大会　トラック・レース（ジュニア）　兼　2021年JCFジュニア強化指定選手選考会 500mタイムトライアル	令和2年9月20日～21日 於：長野県・松本市美鈴湖自転車競技場	優勝
				2020年全日本自転車競技選手権大会　トラック・レース（ジュニア）　兼　2021年JCFジュニア強化指定選手選考会 スプリント	令和2年9月20日～21日 於：長野県・松本市美鈴湖自転車競技場	優勝
2	個人	車いす テニス	久保下　郁弥 （伝習館高校３年）	MELBOURNE WHEELCHAIR TENNIS OPEN　ミックスダブルス	令和2年1月22日～26日 於：オーストラリア	準優勝
3	個人	水泳	米盛　夏希 （佐賀学園高等学校３年）	第43回(2020年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会　高等学校・中学校47都道府県通信水泳競技大会 男子５０m自由形	令和2年9月20日～22日 於：福岡県立総合プール	優勝

令和２年度　久留米市ジュニアスポーツ賞　受賞者

▼ジュニアスポーツ賞

No	氏名（所属）			大会名	日時／会場	結果
1	個人	スポーツ クライミング	大石　須遥 （山川小学校５年）	にしけいカップ九州スポーツクライミングコンペティション2020 リード種目	令和2年10月18日 於：アクシオン福岡	優勝
2	個人	バドミントン	宮原　圭純 （日吉小学校５年）	九州小学生バドミントンフェスティバルinくるめ ５年生以下男子シングルス	令和2年11月22日～23日 於：久留米アリーナ	優勝

教育委員会資料
令和３年３月１９日
市民文化部体育スポーツ課

2021年グランドスラム・タシケント大会の成績報告について

１　概要

2021年グランドスラム・タシケント（ウズベキスタン）大会において、久留米市出身の柔道・素根　輝（そね　あきら）選手が優勝する輝かしい成績を収めました。

２　大会概要

主　催：国際柔道連盟
開催地：タシケント（ウズベキスタン）
日　時：令和3年3月5日～7日

３　大会成績

女子７８kg超級　優勝

４　試合経過

２回戦	マーン（インド）	一本勝ち
準々決勝戦	ルッフ（ドイツ）	一本勝ち
準決勝戦	キム・ハユン（韓国）	一本勝ち
決勝戦	ソウザ（ブラジル）	反則勝ち

教育委員会資料
令和３年３月１９日
教育部学校教育課

久留米市立小中学校児童生徒におけるゲーム依存度自己診断テストの実施とその結果について

１　調査実施に至った経緯

令和２年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校が長期化した際、子どもたちの生活習慣・学習習慣の乱れについて、多方面から心配の声が挙げられました。中でも、「ゲーム」（ゲーム機器やパソコン、スマートフォン等によるもの）については、時間を持て余す子どもたちが没頭するあまり、結果として生活習慣・学習習慣の乱れ、心身への悪影響等が心配されました。

そこで、学校と家庭が連携し、児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣を確立するために、ゲームの遊び方に関する実態把握を目的として、全児童生徒を対象にアンケート調査を行いました。

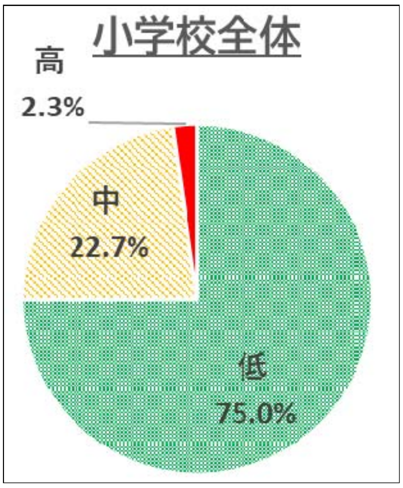
２　実施したアンケートについて

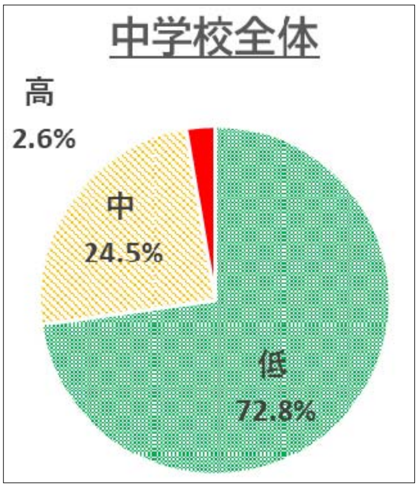
○独立行政法人国立病院機構　久里浜医療センターのＨＰに記載してある「Internet Addiction Test（インターネット依存度テスト）」を参考に久留米市教育委員会で作成

○質問に答えた結果が点数化され、依存の程度が客観的に示されるもの

３　結果について

（１）　久留米市立学校児童生徒全体の傾向



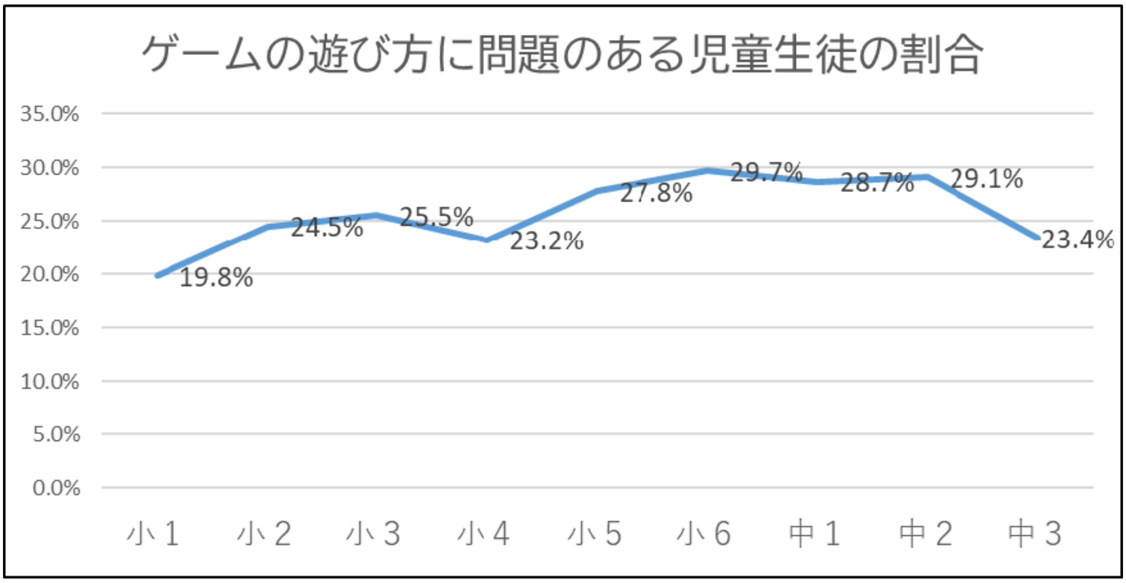


【参考】
低…平均的な遊び方
中…ゲームの遊び方に問題あり
高…ゲームが生活に重大な問題をもたらしている

《考察》

小学生と中学生の傾向に大きな差は見られませんでした。また小学生・中学生ともに、<u>２５％程度（４人に１人）の児童生徒が、ゲームの遊び方に問題がある（依存度中・高グループ）</u>という結果になりました。

（２）　学年別の結果



《考察》

　ゲームの遊び方に問題のある児童生徒（依存度中グループ＋高グループ）の割合だけで比較すると、次のような傾向が見られました。

　小学生は、**高学年になるにつれ、遊び方に問題を抱える児童の割合が増えていく傾向**が見られました。小学校１年生ですでに約２０％の児童がゲームの遊び方に問題を抱えており、６年生ではそこから約１０％増加し、約３０％の児童が遊び方に問題がある結果となっています。

　中学生は、小学生とは反対に、依存度の高い生徒の割合は、**３年生が最も低い傾向**が見られました。

４　今回の結果を受けて

○３月定例校長会において、今回の結果の公開と課題の共有。

○長期休業中の過ごし方について各学校で指導していただくよう依頼し、そのための児童生徒用リーフレットを市教育委員会で作成し提供。

○今回の結果と家庭で大切にしていただきたいことを家庭用リーフレットにまとめ、３学期中の配布を学校に依頼。

○県が実施する「保護者と学ぶ児童生徒の規範意識育成事業」等の場を活用して専門家を招聘したり、外部専門機関と連携したりするなどして、各学校の取組を充実させていくよう学校へ指導・助言。

学校施設のあり方検討プロジェクトの設置について

１　現在の状況

市立学校の施設整備は、令和２年８月に策定した「久留米市学校施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化を基本とする計画的な維持保全に取り組むことで、中長期的なトータルコストの縮減と支出の平準化を図ることとしています。

しかし、施設自体の老朽化をはじめ「小学校の統合」「児童生徒の偏在」「特別支援学級の増加や 35 人学級への移行等による教室不足への対応」「災害発生時の避難所や学童保育所など施設利用の多用途化」「バリアフリー化」等の課題に直面しています。

２　学校施設のあり方の検討について

学校施設は、児童生徒が一日の大半を集団で過ごす学習活動の場であり、安全安心で快適な教育環境を整えることが一層重要になっています。

厳しい財政状況の中、前述したような課題を解消するためには、教育部の各課の施策を受けて施設整備を行うのではなく、各課が施策を企画立案する段階から施設整備を考慮した取組が求められています。

そのため、教育部の各課が情報を共有しながら連携し、学校施設の効率的・効果的な整備を行う必要があります。

３　久留米市教育委員会の取組

以上のことから、これまでの学校施設長寿命化推進本部を発展的に解消し、市教育委員会事務局組織規則に基づくプロジェクト組織を設置し、組織横断的に学校施設のあり方について検討を行う組織体制を整備します。なお、プロジェクトメンバーには庁内の事例に準じ、辞令を交付します。

久留米市教育委員会事務局組織規則改正案（抄）
（プロジェクト等の設置）
第８条　教育委員会は、臨時又は特別の事務であって、総合的又は効率的な事務の処理を行うため必要がある場合は、別に定めるところによりプロジェクトチーム又は委員会等の組織を設けて処理することができる。

４　学校施設のあり方検討プロジェクト

(1)　役割

教育部のプロジェクト組織として、部内各課の情報共有を行うとともに、事務事業が学校施設のあり方の視点に立脚して行われるよう全体調整や進行管理を行います。

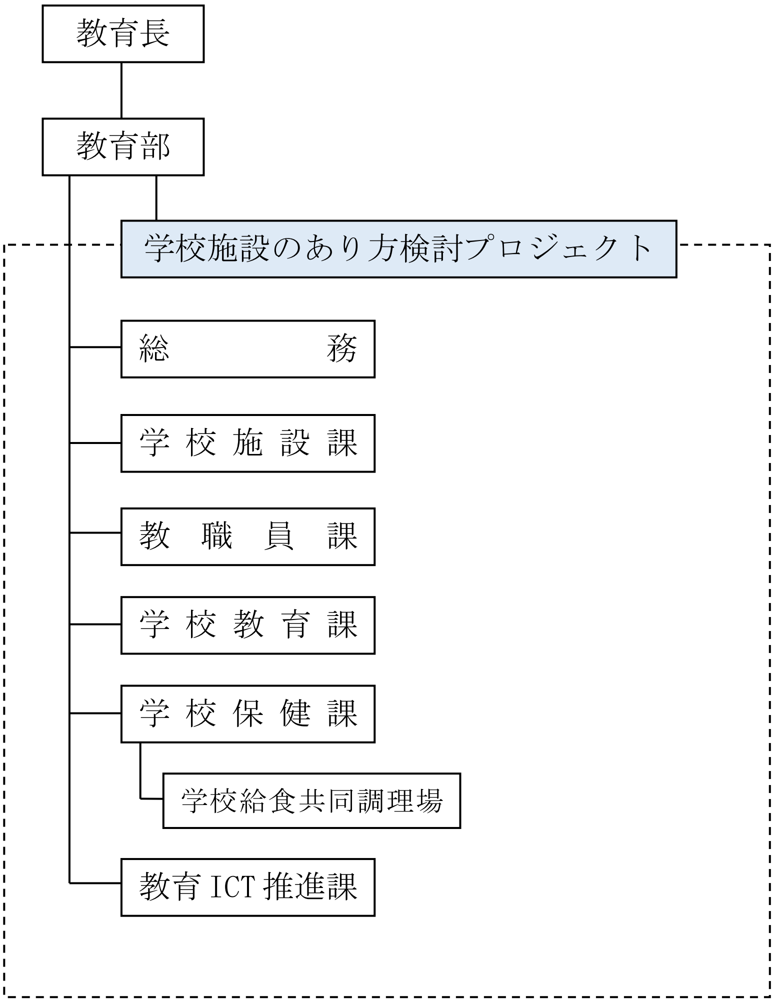
(2)　メンバー

教育部長をリーダーとし、教育部各課の管理職を始めとする職員をメンバーとします。また、状況に応じてメンバーを加えることも可能とします。

(3)　部会

多岐にわたる課題を効果的に検討するため、プロジェクト内には課題ごとの検討部会を設置できることとします。

【参考】学校施設のあり方検討プロジェクト



人権教育推進プロジェクトの設置について

1　現在の状況

現在の学校は、同和地区の児童生徒をはじめ、障害を有する児童生徒、外国にルーツを持つ児童生徒、貧困や虐待にさらされている児童生徒、不登校や不登校傾向にある児童生徒、ＬＧＢＴＱの児童生徒、いわゆるヤングケアラーである児童生徒、宗教上の配慮を必要とする児童生徒、その他教育上特別な支援を必要とする児童生徒など、様々な状況に置かれたり、困りごとを抱えたりする状況が進んでいます。

また、新型コロナウイルス感染症に伴い、全国的に感染者やその家族、在籍する学校のほか、医療従事者等に対する差別や偏見が発生するなどの状況も見られています。

2　学校教育における人権教育の推進

このような状況を踏まえ、学校教育の基盤は人権教育にあることを認識するとともに、子どもたち一人ひとりが多様性を尊重されながら成長し、相手の立場に立って共感し、考え、行動できるようになることによって、あらゆる差別や偏見を防止することが一層に重要になっています。

3　久留米市教育委員会の取組

以上のことから、市教育委員会事務局組織規則に基づくプロジェクト組織を教育部に設置し、組織横断的に人権教育の推進に取り組む組織体制を整備します。なお、プロジェクトメンバーには庁内の事例に準じ、辞令を交付します。

久留米市教育委員会事務局組織規則改正案（抄）

（プロジェクト等の設置）

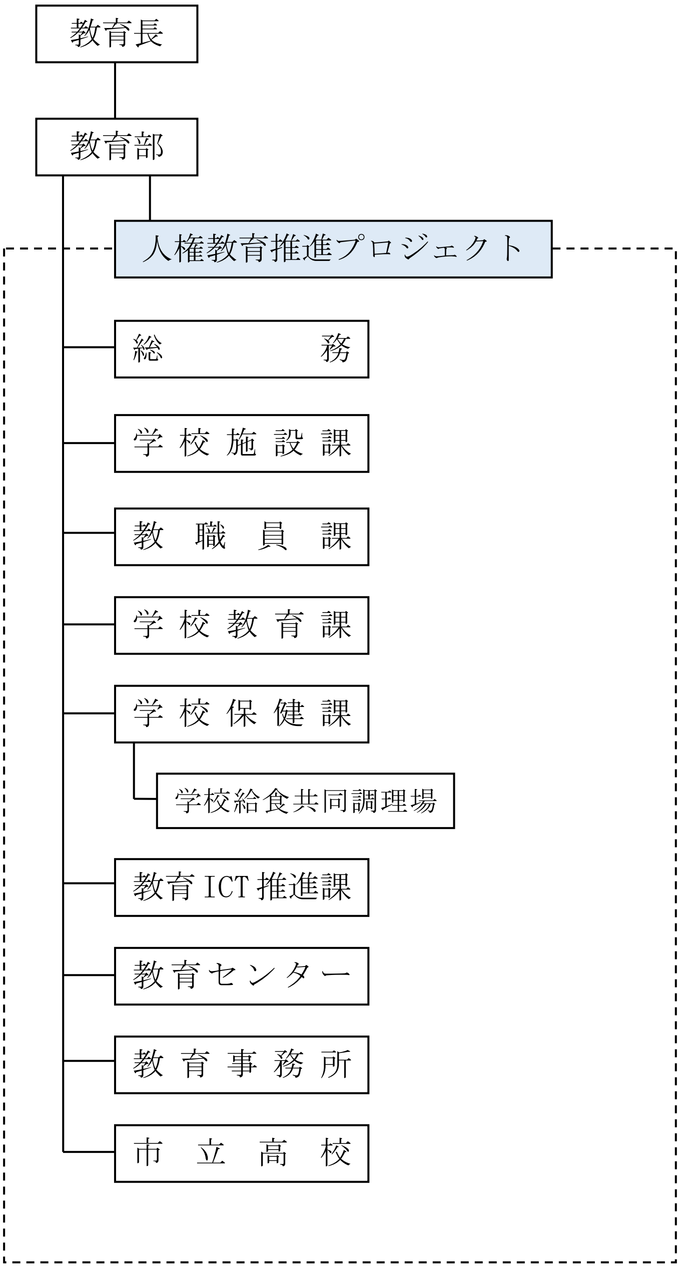
第８条　教育委員会は、臨時又は特別の事務であって、総合的又は効率的な事務の処理を行うため必要がある場合は、別に定めるところによりプロジェクトチーム又は委員会等の組織を設けて処理することができる。

4　人権教育推進プロジェクト

(1)　役割

教育部のプロジェクト組織として、部内各課の事務事業が人権・同和教育推進の視点に立脚して行われるよう、情報共有を行うとともに指導助言や支援を行います。

(2)　メンバー

学校教育課の人権・同和教育担当課長をリーダーとし、教育部各課の管理職や指導主事等からメンバーを選定します。また、状況に応じてメンバーを加えることも可能とします。

【参考】人権教育推進プロジェクト